

《短報》

背中線があるヌマガエルの割合

川野敬介

豊田ホタルの里ミュージアム、〒750-0441 山口県下関市豊田町大字中村 50-3

はじめに

ヌマガエル *Rana (Limnonectes) limnocharis* Boie, 1935 は、本州中部（神奈川県）以西、四国、九州、先島諸島を除く西南諸島、台湾、山東省以南の中国、東南アジア全域、インドに分布する小型のカエルで、種内において背中線が出現する個体と出現しない個体がいる、その割合としては九州以北産では多く、奄美・沖縄産では出現しないとされている（前田・松井, 1999）。

本稿では、豊田ホタルの里ミュージアム敷地内のヌマガエルを採取し、背中線がどの程度の頻度で出現するのかを調査したので、報告する。

調査時期と方法

調査は、山口県下関市豊田町中村（豊田ホタルの里ミュージアム敷地内）において、2011年7月17日に行った。調査方法は10名の調査員が1時間の時間内に目視で見つけ、採集して出現頻度を算出した。なお、同時にすべての個体の頭胴長を計測した。

結果および考察

調査の結果、114個体のヌマガエルを採集することができた。そして、その内背中線が出現していた個体（図1）は24個体、出現していなかった個体（図2）は90個体であった。つまり、全体の21%に背中線が出現していた。出現した個体の頭胴長は  $2.28 \pm 0.35$  cm（平均±SD, N=24）で、出現しなかった個体の頭胴長は  $2.27 \pm 0.36$  cm（N=90）であり、両者間に有意な差は認められなかった（t検定,  $p > 0.001$ ）。なお、体サイズ以外に体色や行動、微生息空間などにも特に違いは認められなかった。



図1 背中線が出現したヌマガエル



図2 背中線が出現していないヌマガエル

川野敬介

謝 辞

この調査を行うにあたり、次の方々にご協力頂きましたので、記して御礼申し上げます。久我綺花氏、久我立氏、竹永敦士氏、竹永晴樹氏、竹永洋子氏、堤 祥子氏、堤 桃子氏、鶴田君春氏、藤田翔吾氏 (50 音順)。

引用文献

前田憲男・松井正文 (1999) 「改訂版 日本のカエル図鑑」:110-111. 文一総合出版, 東京.